

# 番組審議会

## 第698回

2025年11月17日

- 審議会の構成
- |       |     |    |       |
|-------|-----|----|-------|
| 出席委員数 | 10名 |    |       |
| 委員長   | 音   | 好  | 宏     |
| 副委員長  | 江   | 澤  | 佐知子   |
| 委員    | 川喜田 | 尚  | 田中東子  |
|       | 谷本  | 歩実 | 洞口依子  |
|       | 長嶋  | 有  | 二関辰郎  |
|       | 水無田 | 気流 | 目加田説子 |
- 
- |        |   |   |                          |
|--------|---|---|--------------------------|
| TBSテレビ | 龍 | 宝 | 社長                       |
|        | 合 | 田 | 専務                       |
|        | 井 | 上 | 取締役                      |
|        | 三 | 城 | コンテンツ戦略局長                |
|        | 荒 | 井 | 報道局長                     |
|        | 山 | 岡 | 「戦後80年プロジェクト」<br>プロデューサー |
|        | 藤 | 野 | 「戦後80年特別番組」<br>制作プロデューサー |
|        | 藤 | 田 | 編成考査局長                   |
|        | 浜 | 崎 | カスタマーサクセス室長              |
|        | 満 | 田 | 番組審議会事務局長                |

■ 議事概要

1. 審議事項
  - (1) 「戦後80年プロジェクト つなぐ、つながる」
  - (2) その他
2. 報告事項

(1) ミスゼロキャンペーンについて

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

5. 議事の概要

【審議番組について】(「戦後80年プロジェクト つなぐ、つながる」)

今年は戦後80年。太平洋戦争を経験した方の言葉を直接伺える機会は減ってきている。一方でウクライナ、ガザなど世界では戦争状態が続き、日本を取り巻く環境も厳しくなっている。この世界情勢は、戦争の愚かさ、悲惨さを私たちが実感できなくなっているせいではないか。そんな思いから、TBS/JNNがスタートさせたこのプロジェクトでは、1年を通して各報道番組内で戦争に関する特集を随時放送し、11月までに約120本の企画をオンエア。放送後は「TBS NEWS DIG」に動画・記事をアップした。さらにYahoo!ニュース、noteと共同で「#きおくをつなごう」というキャンペーンも展開、若い層にも数多くリーチしている。

審議会では、プロジェクト全般および下記の番組・企画について審議を行った。

- 「戦後80年特別番組 なぜ君は戦争に? 綾瀬はるか×news23」  
(8月14日放送)
- NEWS DIG内の動画4本
  - 「元日本兵の父との壮絶な日々 旧日本軍がタブー視した兵士のPTSD」
  - 「戦時中の替え歌から当時の子どもたちの本当の姿が見えた」
  - 「東京大空襲80年『逃げなかった』人たち 防空法と市民に広がった同調圧力」
  - 「相模海軍工廠の毒ガス兵器製造の記憶 中国の村を訪れた男性の思い」

【委員の主な意見】

<プロジェクト全般>

- いわゆる「8月ジャーナリズム」ではなく、今年が戦後80年ということで

1年間続けたことに非常に意味がある。

- 戦争経験者の一言一言は重く、証言を記録に残すことは大事だと改めて思った。10年後どれだけの方がお元気であるだろうと考えると、まだまだ取材して記録に残しておくべきこと、勉強すべきことがたくさんある。
- 戦争の悲惨さを語り継ぐのはやはり人間の記憶、人間の声、人間の痛みでしかない。AIとともに生きる時代だからこそ、私たちが人間らしさを守り抜く責務はむしろ年々重くなっているのだと強く思った。

<「戦後80年特別番組 なぜ君は戦争に？」について>

- 自分の子どもにどうやって戦争を伝えていくか考え、一緒に番組を見た。「最後の特攻隊、何で飛んだのかな」と子どもに聞いたら「みんなが死んで自分だけが生き残るわけにはいかなかったのかな」と答えがあり、ちゃんと伝わっていると感じた。
- 戦時中の空気と今の日本社会の空気感が連続していることを考えさせられた。戦時中の男性優位社会の中で、女性たちが活躍せねばと戦争に加担していくメカニズムも、現代の日本社会に通底すると改めて認識した。
- 綾瀬はるかさんがMCを務めるということ、戦争を知らない人たちでこれからやっていくんだというメッセージのように受け取れるし、若い人たちが語る必要があるというメッセージにもなっていた。
- 99歳の神馬文夫さんの言葉がすごく強く、心に刺さった。学生さんに「よく勉強して」と語っていたが、歴史をきちんと勉強することで、再び戦争に加担していくことを回避できるのだという、番組の強いメッセージを感じた。
- 途中突然ドラマが入ることで、どこまでが独自取材で、どこからが既存の情報なのかわかりづらく、調査取材的なニュアンスが薄れてしまってもったい

なかった。

- ドキュメントとドラマの温度差はどうしても生じる。本当の記録は記憶を呼び覚まし、知らない人にとっては学びにつながる。ドラマはあくまでもドラマ、音楽で盛り上げようとせず、視点を変えてみるなど工夫が必要では。
- 日本が第二次世界大戦でどの国と戦ったのか知らない若者がいると聞いた。当時の歴史的経緯や背景などの情報がもう少しあると、より具体的に伝わって自分事として考えられるようになったのでは。
- 被害者としてだけでなく、加害者としての日本にも少しでも触れて欲しかった。ナレーションでもテロップでもいいのであって欲しかった。

#### <NEWS DIGで視聴した動画について>

- どれも10分程度で隙間時間に見ることができる。この「つなぐ、つながる」の意図を目にする機会がたくさん用意されることは、あまりテレビを見ない若い人たちにも訴えかけるものがあり、ぜひ続けてほしい。
- 短いかもしれないが、しっかりとしたドキュメンタリーを継続的に出すことの持っている意味は非常に大きい。
- 特定の番組で放送して終わり、ではなくNEWS DIGを活用したこと、地上波の多メディア活用はこうあって欲しい。特設ページ内に目次として企画一覧が掲載されていたらより使い勝手がよくなったのでは。
- 同調圧力を取り上げた企画が印象に残った。後押しするのは市民が作り出す空気なんだということが非常に大事だと思った。ただその空気を作るのにメディアが大きく貢献しているということもあわせて大事なことだと思う。

【局からの回答】

- 実は神馬文夫さんは10月17日に亡くなられた。皆さんに神馬さんの言葉が響いたと言っていた。またご遺族からも「最期にいい仕事をしたと本人も思っていると思います」とご連絡があった。
  
- 日本の「加害」の部分の特番でも取り上げるべきでは、とすごく考えた。「日本の空気」「アメリカの空気」「植民地の空気」の3つを取り上げたいと思い、台湾で取材を進めていたが、尺の問題などから台湾の部分は「news 23」で放送することを選択した。
  
- 特番のドラマパート、つくっている側にとっても非常に難しかった。最後の特攻隊員の心情の変化を描きたくてあの手法をとったのだが、ご指摘のとおりファクトとドラマ、どう組み合わせたらいいのかは今後研究の余地がある。重々受け止めながら、トライを重ねていきたい。